

今年度の取組状況

基本的な進め方

● 2023年度は『関東地域におけるコウノトリ・トキを指標とした生態系ネットワーク形成基本計画(改定版)』について、引き続き2030年・中期目標の達成に向け、2025年に中間評価が行われる「重点プログラム」を中心に専門部会のテーマ毎の課題をヒアリング・ワーキング等で検討・整理を行った。

今年度のスケジュール

			*				12/13 •		
				<u> </u>			12/20		
				(12/18•		
隹	←	7/4			10/30●	11/9•			
	K	()	個別ヒアリン	, グ)	10/31				
\$	<	(個別ヒ	アリング)	10/18	10/31				
<								>	
5/27●						11/4-5●		1/18	
.						11/23			
	5/27●	5/27 •	(個別比 5/27●	(個別ヒアリング) (個別ヒアリング) 5/27●	(個別ヒアリング) 10/18●	(個別ヒアリング) 10/31● 10/31	(個別ヒアリング) 10/31 (個別ヒアリング) 10/18 10/31 (個別ヒアリング) 10/18 11/4-5 (11/23 11/	# 10/30 11/9 10/31 (個別ヒアリング) 10/18 10/31 (個別ヒアリング) 10/18 11/4-5 11/23	性 7/4 10/30 11/9 10/31 (個別ヒアリング) 10/18 10/31 11/4-5 1/18 11/23 1

各部会共通の取組み

- ① 2030年・中期目標の達成に向けて、 改定版基本計画の「重点プログラム」 を中心に取組みを推進
- ② 関東エコ・ネットの取組みについて、「第71回利根川水系連合・総合水防演習」(5/27)、「ジャパンバードフェスティバル(JBF) 2023」(11/4-5)の機会を通じて普及・広報を行ったほか、関係組織等との連携について、「関係機関等連絡会議(準備会)」(1/18)の開催・調整、農水省や環境省等の関連機関との連携強化を実施
- ③ 推進協議会設立10周年記念シンポジウム(11/23)の準備・運営

関東地域におけるコウノトリ・トキを指標とした 生態系ネットワーク形成基本計画

~コウノトリ・トキの舞う魅力的な地域づくりを目指して~

<中期目標(2030年)に向けた新5か年計画>



令和4年3月

関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会

2030年までに実現を目指す中期目標

- ◆コウノトリの関東地域個体群の形成が進むとともに、コウノトリをシンボルとする国内各流域のエコネット事業地間から東アジアに至る個体群間の交流がはじまっている。
- ◆コウノトリやトキの関東地域個体群が自活して繁殖・生息が可能となる湿地環境等の改善や創出が、堤外・堤内における関連主体の役割分担に応じ流域一体で進められており、河川と水田がつながることで淡水魚があふれている。
- ◆コウノトリ・トキと共にくらせる地域を誇りとし、地域経済 及び社会を構成する様々な主体の賑わいに基づいた、持続可 能で魅力ある地域づくりが進められている。
- ◆グリーンインフラの概念による流域治水の取組みが主流化し、コウノトリ・トキのほかにも関東各エリアの地域特性に基づく指標種を加味した、個性豊かなエコロジカル・ネットワークの形成が促進されている。

国土交通省関東地方整備局河川部のHPにて公表・掲載中!



https://www.ktr.mlit.go.jp/river/chiiki/river_chiiki0000 0035.html

1. 広報活動@第71回利根川水系連合·総合水防演習

日時:2023年5月27日(土) 場所:埼玉県深谷市

エコ・ネットに期待する「効果」アンケート結果



水防演習(リハーサル)の様子



出展ブースの様子





来場者への説明の様子





小山市からお借りしたコウノトリのデコイと説明パネル

2. コウノトリ関係4団体で広報活動 @「ジャパンバードフェスティバル2023」

(複数回答)

日時:2023年11月4日(土)・5日(日) 場所:千葉県我孫子市

<u>ブース来場者を対象としたアンケート結果(抜粋)</u>

■関東エコ・ネット等の認知度

■関東エコ・ネット認知度の推移





「関東エコロジカル・ネットワーク推進協 議会」「コウノトリ・トキの舞う関東自治体 フォーラム」合同出展ブースの様子

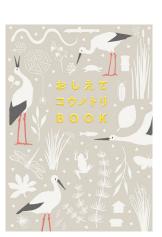


野田市コウノトリと共生する地域づくり推進協議会

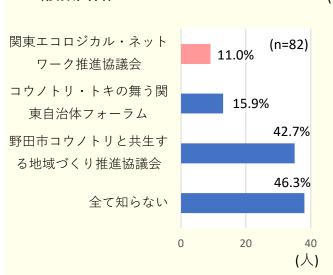


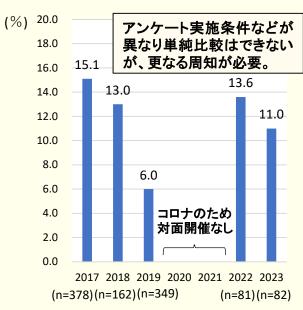
広報ツール

動画上映

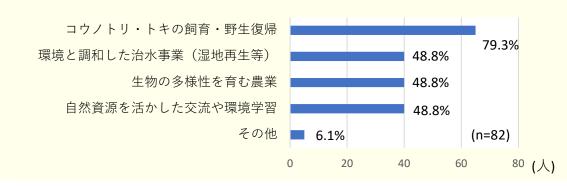


「おしえてコウノトリBOOK」 (2019年度製作) (約300配布)





■コウノトリ・トキをシンボルとした取組で特に関心のある取り組み (複数回答)



3. 「関東エコロジカル・ネットワーク10周年シンポジウム」

日時:2023年11月23日(木·祝) 場所:千葉県野田市

■テーマ 関東の空にコウノトリとトキが舞う ~環境と治水の好循環・10年の歩みとこれから~

■日時 令和5年11月23日(木·祝)10:00-16:50

■場所 野田市役所8階・大会議室、こうのとりの里

■主催:関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会

後援:コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム

協力:野田市、㈱野田自然共生ファーム

■参加者数 シンポジウム:187名(会場132名、オンライン55名)/サブイベント:25名



シンポジウム

1 オープニング

関東エコ・ネット取組紹介動画の放映

2 開催地挨拶 野田市長 鈴木有



3 おしえて!涌井先生 関東エコ・ネットって?

ミニ講演『関東エコ・ネット10年の成果とこれから』

関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会会長東京都市大学 特別教授 涌井史郎

『聞いてみよう、関東エコ・ネットのこと』



4 パネルディスカッション

河川を基軸とした生態系ネットワークによる 魅力ある地域づくり



(パネラー:写真左から)関東地方整備局河川部・矢崎剛吉部長、大正大学社会共生学部・本田裕子教授、金沢大学先端観光科学研究所・菊地直樹教授、東邦大学・長谷川雅美名誉教授、野田市・鈴木有市長、小山市・浅野正富市長

5 閉会挨拶

コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム 代表理事 **浅野正**富 **5** 関東エコ・ネット連携イベント (12:30~13:20/16:20~16:50)

「おしえて!コウノトリ」ポスター&グッズ展

関東エコ・ネットとコウノトリの関係や、各エリアの取組をポスター展示で紹介するとともに、関連グッズの展示・販売も実施しました。また、協議会委員の皆様から頂いたメッセージを展示しました。

























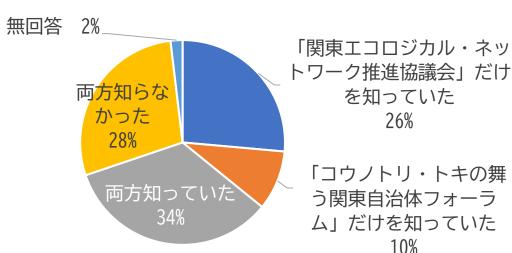


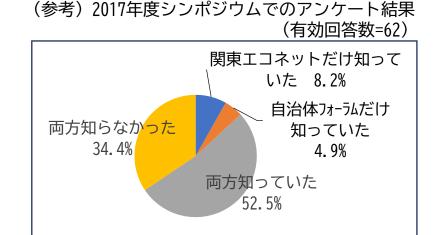


参加者アンケートの結果

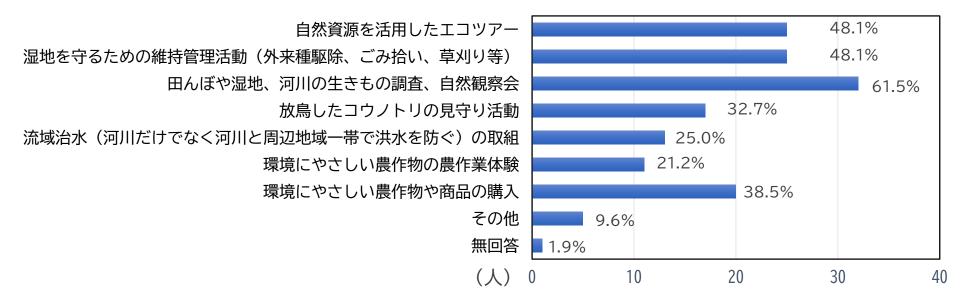
(有効回答数=55)

Q. 「関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会」「コウノトリ・トキの舞う関東自治フォーラム」を 知っていましたか?(複数回答)





Q.「関東エコ・ネット」の取組のうち、参加したい活動や、やってみたい取組は何ですか? (複数回答)



サブイベント (10:00~11:30)

晩秋の里山で"コウノトリの巣づくり"体験!

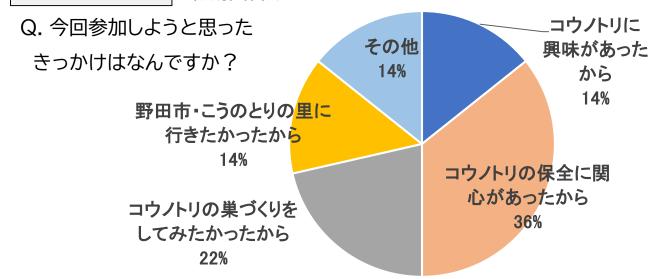
(株)野田自然共生ファームによる運営で、コウノトリについて学び、巣づくりを体験するイベントを「野田市こうのとりの里」で開催しました。 当日は、野外で暮らすコウノトリも飛来し、イベントを盛り上げてくれました。

参加者数

25名(大人16名、小学生9名)

アンケート結果

有効回答数=14



- Q. 今後、コウノトリ・トキ関連のどんなイベントを開催してほしいですか?
 - ・コウノトリ飼育現場見学や餌場やふんなどを実際に見たい
 - ・コウノトリやトキの生態についての講座
 - ・エサやり体験
 - ・コウノトリスタンプラリー
 - ・放鳥会などがあれば参加してみたい







<参考>関東エコロジカル・ネットワークHPのアクセス解析

アクセス概況

		2023年	2022年	備考								
閲覧数	総数(回)	9,871	7,756	のべ閲覧者数								
(PV)	日平均(回/日)	27.0	21.2	の、児見日奴								
閲覧者数	総数(回)	4,175	3,029	ユニークユーザー=のベ								
(UU)	日平均(回/日)	11.4	8.3	ではない閲覧者数								
PV/UU	(回/人)	2.4	2.6	% 1								
離脱率	(%)	0.0	22.5	% 2								
平均滞在時間	(秒)	115	119									

- ※1) PV/UU: 閲覧者当たりの閲覧回数
- ※2)離脱率: 当該ページが閲覧の最後のページになった割合

- 閲覧数、閲覧者数ともに昨年度から 増えており、多少ではあるが情報発 信の効果が見られたと推測される。
- 今年度の離脱率は0%:必ず何らかのリンク先頁の閲覧につながっている。
- PV/UUが減少:再訪問率でもあり、 関心の高さにもつながることから、 この数値をあげる工夫が必要。

日アクセス数推移の比較

情報発信と連動したと推測されるアクセス増加が確認されており、アクセス数増のためには、情報発信・更新頻度を高める必要がある。

